

熊本市立植木病院が担う 役割について

平成30年7月熊本市立植木病院

1 現状と課題

基本理念

信頼と満足の得られる
全人的医療の提供

基本方針

患者さん中心の医療
安全医療の推進
地域に密着した連携医療
たゆまざる質向上と自己研鑽
健全経営の確保

1 現状と課題

当院の機能

一次・二次救急

(救急告示病院、鹿本地区病院群輪番制)

許可病床数 141

急性期：一般病床86、地域包括ケア病床14

回復期：なし

慢性期：療養病床39

健診：ドック2

診療科：5 診療科

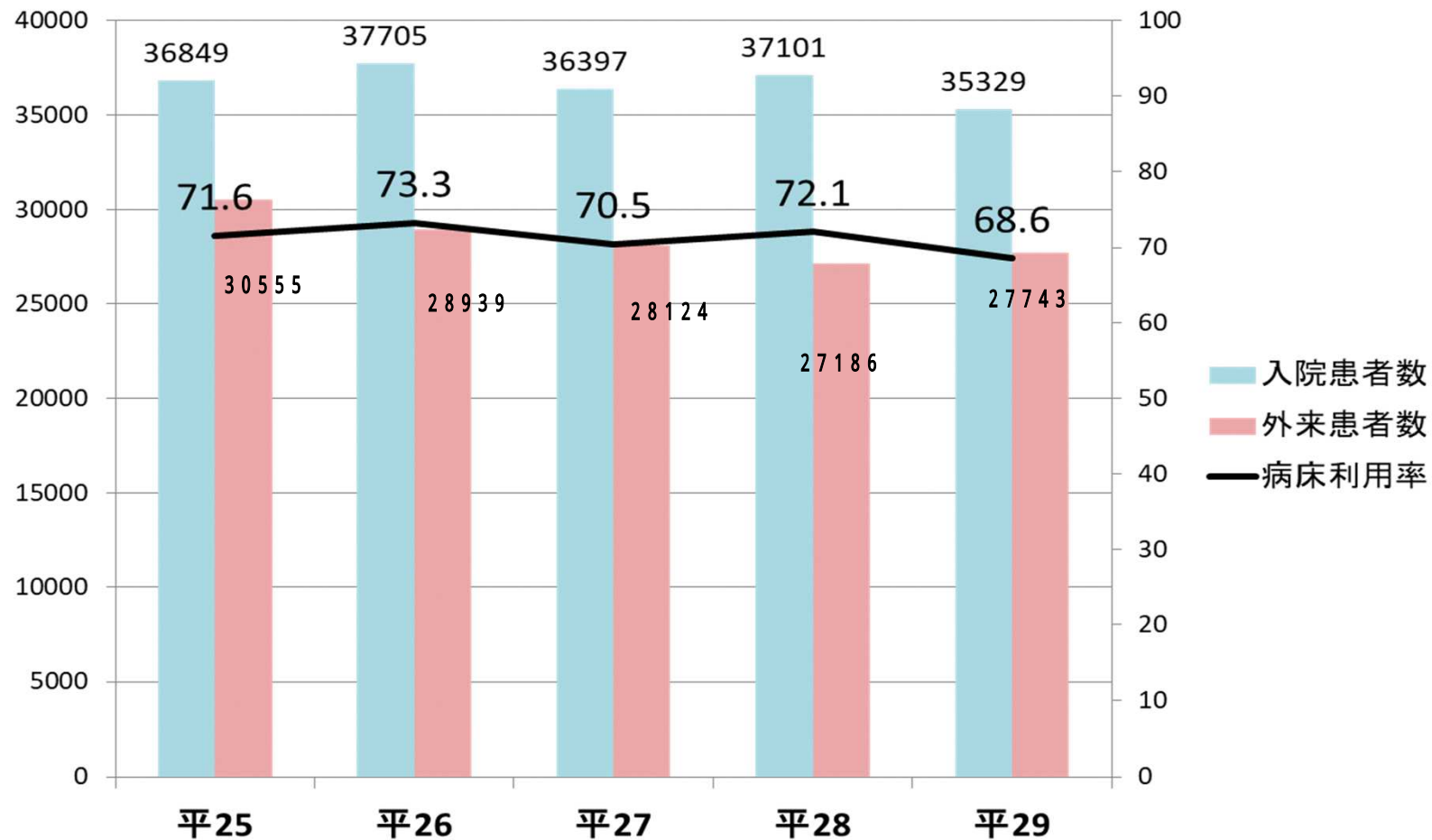
医師 10名(平30年4月現在)

看護師 68名

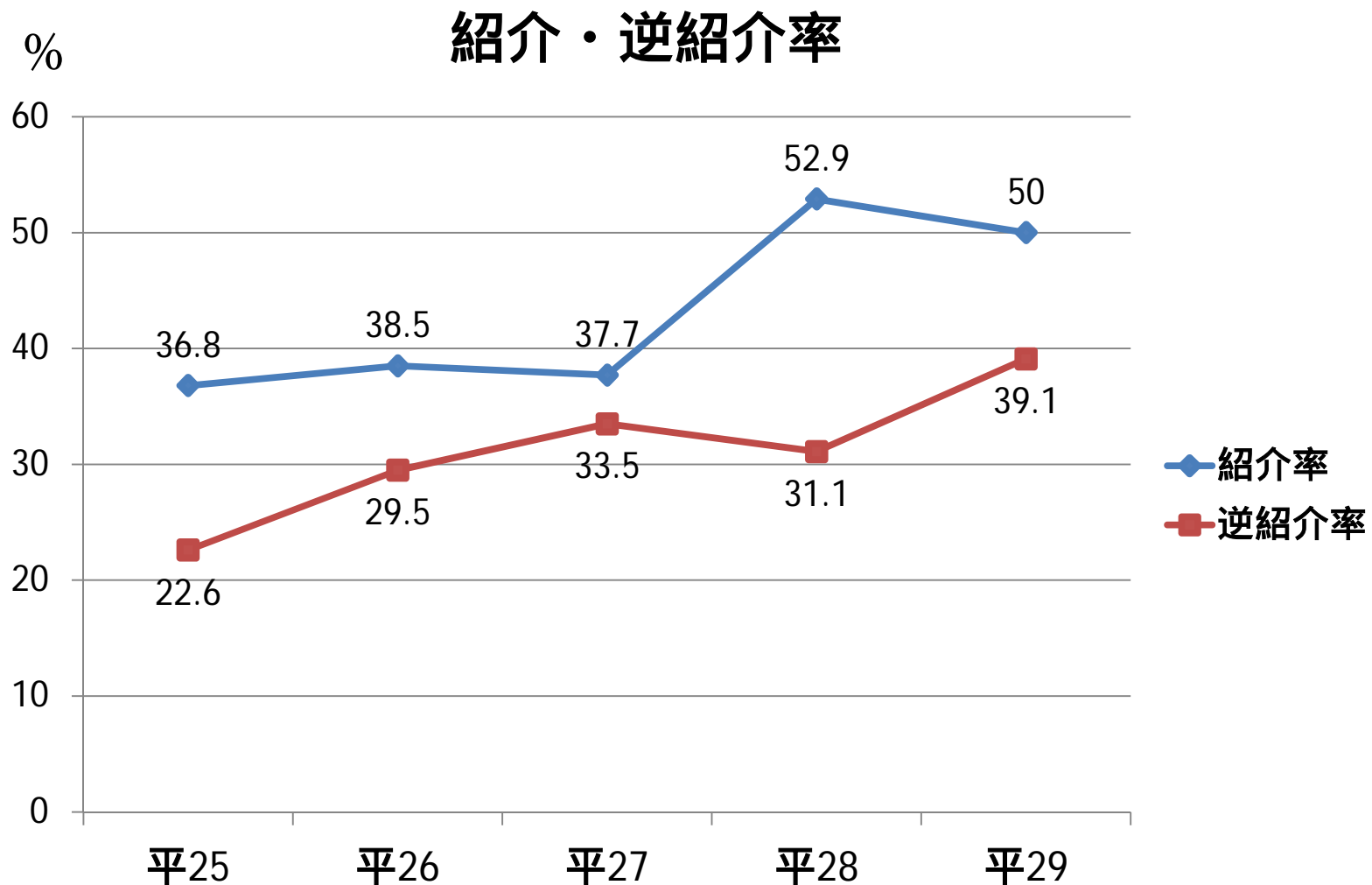
医療技術員 19名

事務職員 8名

1 現状と課題

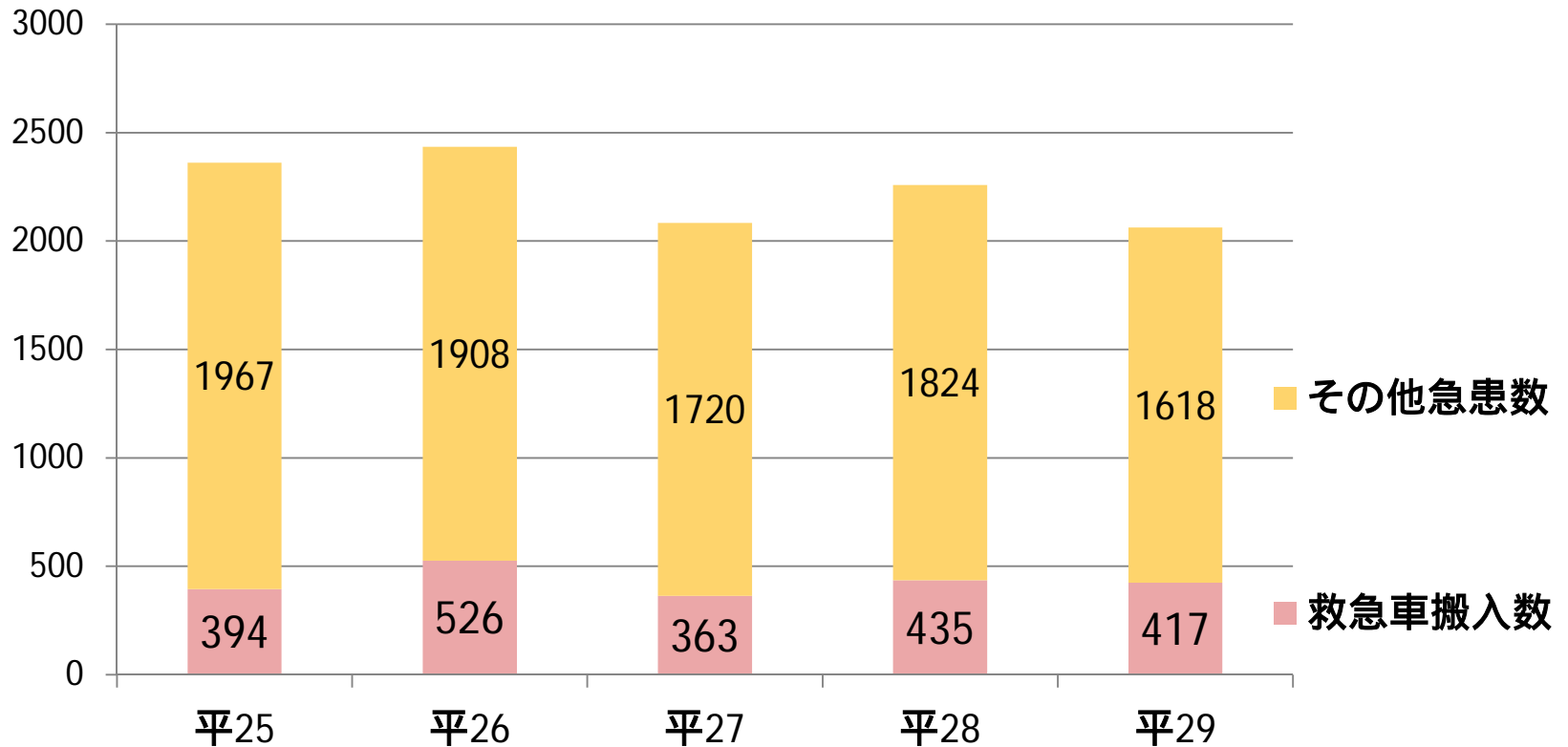


1 現状と課題



1 現状と課題

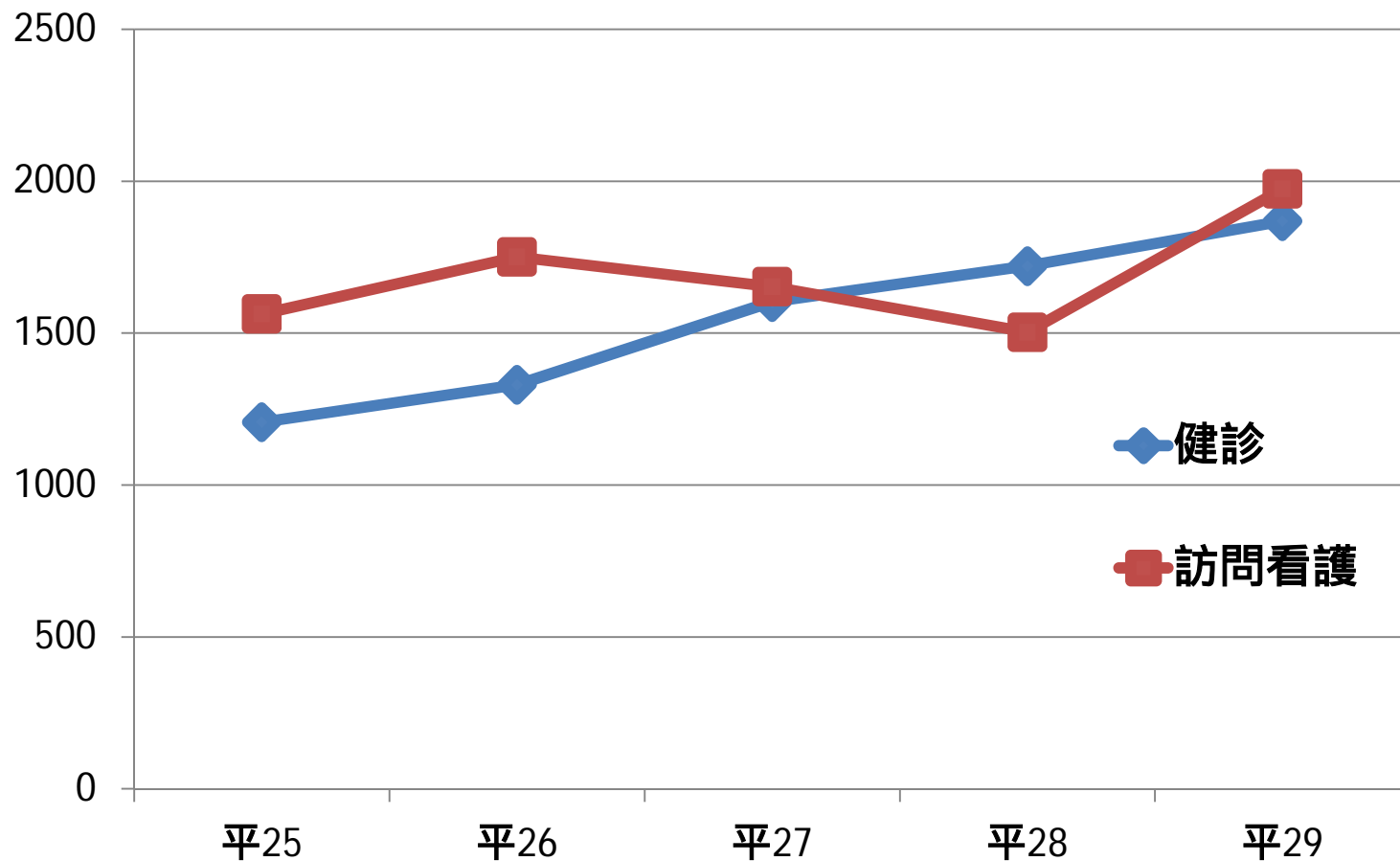
救急患者受け入れ状況



平29年 入院/救急車患者:54.4% 転送/救急車患者:4.8%

1 現状と課題

健康診断者数・訪問看護延べ数



1 現状と課題

当院の主な機能は、旧植木町と鹿本地区の一部で、地域包括ケアシステムの一役を担っています

4機能では急性期医療と慢性期医療を担当しています

一次救急医療と鹿本地区病院群輪番制

重症患者は高次医療機関に速やかに紹介し、回復期には速やかに受け入れています

その体制を整えるために、平成26年10月に急性期病床の10床を回復期として地域包括ケア病床へ転換し、需要の増大により、平成28年4月に14床としました。

また、国保病院時代からの役目である予防医療や訪問看護等にも力を注いでいます

健診、健康教室の開催など

1 現状と課題

当院の課題

医師数が10名と少ない中での診療であり、救急や当直体制に負担が大きく、医師確保や診療科の維持に苦慮している

紹介率・逆紹介率は増加しているが、専門性の高い病院を希望されることが多く、外来患者・入院患者数が減少傾向にある

2 今後の方針

地域住民が安心して暮らせる保健医療の提供

- 救急車や近隣の医療機関からの受け入れを積極的に行い、急性期医療に対応
一次救急・病院群輪番制の継続
- 重症患者を高次医療機関に速やかに紹介し、回復期には速やかに受け入れる
病診連携・地域包括ケア病室の活用
- 健診・予防医療・訪問看護・訪問診療
健康教室の開催・地域連携の推進

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	—	—	—
急性期	100(14)	100(14)	100(14)
回復期	—	—	—
慢性期	39	39	39
その他	2 (人間ドック用)	—	—
合計	141	139	139

急性期の()内は地域包括ケア病床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

平成26年の診療報酬改定に伴い、高次医療機関からの患者受け入れのために急性期一般病床から地域包括ケア病床へ10床転換しました。

現在、地域包括ケア病床は14床で、今後も維持します。

その他の2床は人間ドックの1泊入院用として確保していましたが、現在は使用していないため、削減します

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (平30年7月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・循環器内科 外科・整形外科 脳神経外科	同じ	新たな医師確保が 難しいため
新設	予定なし		
廃止	予定なし		
変更・統合	予定なし		

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年7月時点)	2025年
病床稼働率	69.1%	81%
紹介率	50%	70%
逆紹介率	39.1%	60%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

植木地区の医療圏は、人口の減少と高齢化が予想されます。

高齢化社会に対する診療報酬体制ならびに地域包括ケアシステムの維持に努めます

重症患者に於いては高次医療機関での治療が速やかに受けられ、後治療を当院で受けられるように病診・病病連携を更に推し進めます。

救急告示病院として引き続き救急体制を維持していきます

4 その他特記事項

旧植木町および近隣周辺域の医療体制の概要

医療機関は植木病院の他に2病院(一般病床32が1病院・救急告示、精神等病床198床1病院、16の診療所)
また隣接する旧北部町域に1病院(地域包括ケア48、回復期リハ病床40、介護療養型医療病床42・救急告示)等があります

熊本大学、熊本医療センターなどで手術を受けた高齢者の受け入れ先として地域包括ケア病床を今後も確保していきたいと思えます